

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・民間事業者のキャンペーンや関西圏域でのイベントなどに合わせて、大分県向け旅行商品を造成し、誘客策に取り組んだ。また、駅から始まるミニツアーなど、地域の観光資源を磨き、商品化につなげるための事業も積極的に実施した。
②	・平成22年度に設立されたボランティアガイド協議会の拡充に努め、登録団体数及び団体会員数とも、23年度と同じ団体数及び会員数を堅持した。
③	・官民協働で「大分県ツーリズム戦略」を策定し、「日本一のおんせん県おおいた」のキャッチフレーズで全国に向けての情報発信を行った。
④	・増加傾向にあった中国からの観光客は、夏以降、領土問題をきっかけに減少に転じた。一方、台湾や香港からの観光客については増加した。また、回復が遅かった韓国からの観光客は、24年11月から前年同期に比べ大幅に増加している。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(24年度事業)	事業コスト(千円)	25年度の実施状況	主要な施策の成果掲載頁
①	おおいたジオパーク推進事業	47,384	終了	92
②	おおいた景観創生事業	7,213	終了	14
③	関西圏域観光誘客促進事業	76,381	継続	12
④	海外観光客誘致対策事業	61,655	継続	13

【VI. 施策に対する意見・提言】

○「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会(H25.7.26) ・海外からの観光客の受け入れだが、今年度に入って流れが変わってきている。中国、韓国からASEANが増えてきている。こちらの受け入れ体制を整えること。	○ツーリズム戦略策定委員会(H24.7.31) ・住民が誇りを持ってない地域には魅力を感じない。住民を巻き込んだ地域磨きが必要。 ・観光地は観光客に育てられる。商品もお客様に育てられる。観光客に注目してもらい、まず訪れて興味を持ってもらうために、もっと観光情報の発信を強化すべき。 ・地域振興には最低10年スパン。行政は3年単位だが、継続していくことも重要。
---	--

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・24年度に策定した大分県ツーリズム戦略の主旨に沿って、官民や地域の連携を深めながら、積極的に事業を推進する。 ・国内外の様々な環境の変化に迅速かつ的確に対応した誘客を促進する。 ・圏域別、目的別にターゲットを絞り込み、効果的な情報発信を促進する。 ・主に海外からの誘客促進に際しては、九州各県や九州観光推進機構との連携強化により効果的な取組を実施する。 ・ツーリズムおおいたの機能強化とさらなる連携促進を図る。